

歌仙 『観覧車』の巻

真奈 捌

街いまだ眠らず夏の観覧車
斜めに覗く月明け易し
オークションアイドルの絵に値のついて
待ちに待ったるスター来日
風を聞く仔象の耳の小さく揺れ
暖房温度エコで設定

真奈
丹仙
悦子
真奈
笑

ウ

木枯らしに素振りの竹刀力増し
いつ渡そうか白い封筒
これはこれはウエストサイド物語
僕のマリアは階段の上
まなざしは大理石よりやはらかく
顔に降りくる芒野の星
妖精が月のかけらを掃き寄せて
ピッコロの音に醸す葡萄酒
足取りは右へ左へ紀尾井坂
いまだ剣に血の色があり
花の散る陵寂と遠流の地
蝶ひらひらと渡る海峡

悦子
ぼぼな
笑
真奈
悦子
真奈
笑
悦子
ぼぼな
笑
真奈

ナオ

春光の中に詩人の立ち止まり
ノートに走る文字の調べよ
何の予感正午のチャイム鳴り響き
判決結果二転三転
息白く峠を越えて木曾の山
馬にも少し食はず焼芋
洩れ日射す双体仏のさがり目に
不器用だから止まらない熱
これはもうストーリーカーよと言はれても
ロケット発射十秒前に
忽然と月の兎の消え失せて
拝み太郎の仕舞ひこむ斧

ぼぼな
悦子
真奈
笑
悦子
ぼぼな
真奈
笑
悦子
ぼぼな
真奈

ナウ

サイレンの響き渡れる終戦日
指に備忘の糸を結ぶ夢
鳥の巢に聖火かがやくスタジアム
走り込みせし陽炎の道
いざ行かむ万朶の花のむかうまで
鐘の音高く風光る頃

ぼぼな
笑
悦子
ぼぼな
丹仙
悦子

平成二十年五月二十日 起首 八月十三日 満尾